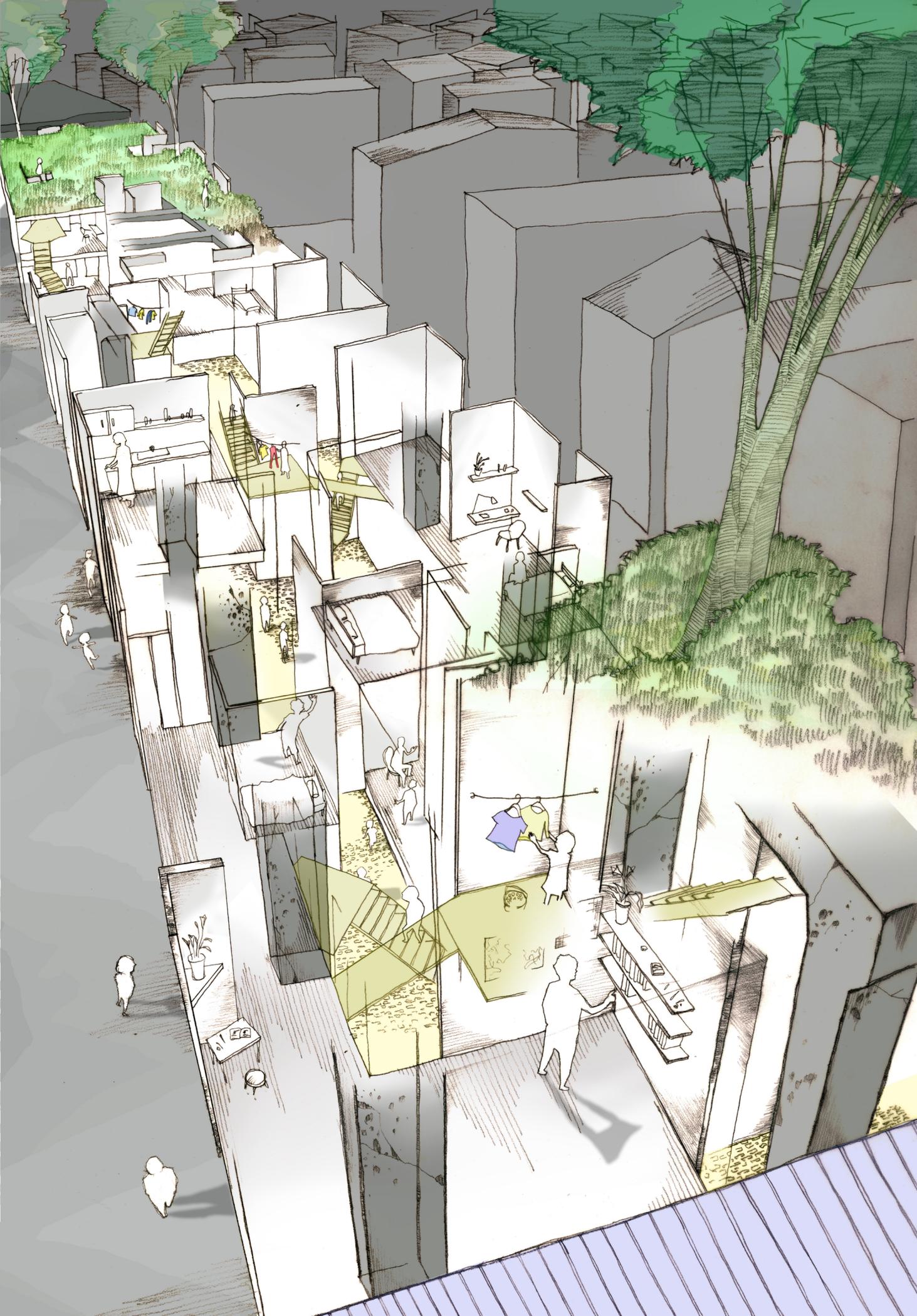


もったいないモノ再生計画



高架橋再生



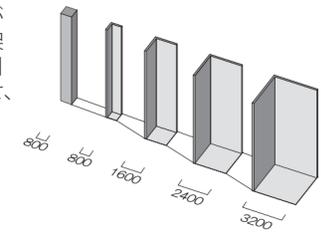
今日において、都市は非常に速い速度で更新されています。老朽化し利用されなくなったものは取り壊され、新しいモノにたちかわり、また取り壊されています。本設計は、そのような可能性を持ちつつも取り壊されてゆく「もったいないモノ」に対して新たな価値を見出し、再生することを目的とします。

対象として、名古屋市内にある南方貨物線という現在使用されていない高架橋を選出し、その特性を生かして集合住宅を計画します。

また、南方貨物線は、ところどころ取り壊されながら、この先20キロ続いています。今後未来にかけて、この高架が再生されていくと仮定し、そのモデルとするための手法と用途（もっとも一般的な用途である集合住宅を採用）を用いて、設計を行います。

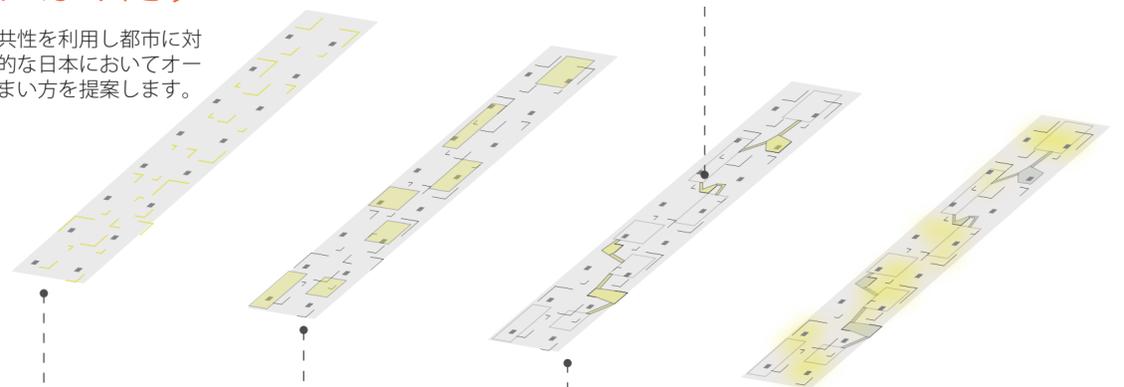
L + □

高架を再生するには、新しく構造体を加えることが必要だと考えられます。そこでL型のRC壁を高架に挿入します。新規構造体の寸法を既存の柱から引用することで新旧の構造体のボリュームを同調させ、既存の柱の過剰な存在感をごまかします。同時にLの形と四角い柱の連続が空間を形成していきます。



都市にはみだす

高架の公共性を利用し都市に対して閉鎖的な日本においてオープンな住まい方を提案します。



高架下の空間に、新規構造体であるL型のRC壁を立ててゆく。配置の間隔は、既存の柱のグリッドに沿ったものである。

L型の壁と四角い柱の間に住宅諸室をつくる。既存の柱を空間の真ん中に取り込むことで空間を仕切る物として活用する。

空間を階段で連結していき、幾つかのまとまりで一住戸とする。日常生活の移動の中に外部をはめ込む操作を行う。

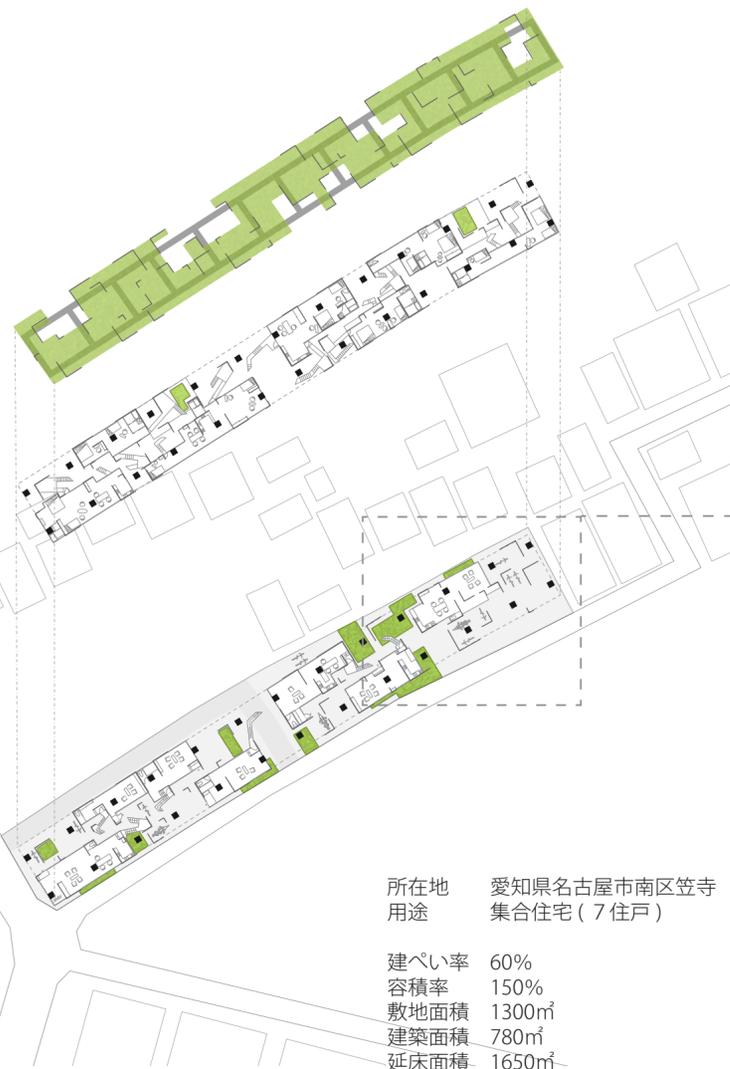
都市にはみ出した階段は高架下であり、大きな屋根がかかった半外部空間である。この空間により高架下は連続してゆく。



GL + 7000 の散歩道

高架の屋上を緑化し、住民の使える庭、散歩道として再生します。この周辺は非常に土地が狭く、庭などない家ばかりなのですが、ここでは高架を利用したことでGL + 7000の地点に第二の大地が生まれています。本来高架はその上を移動するためのものであり形は変化しても散歩道として本質は保たれています。

PLAN 0m 10m



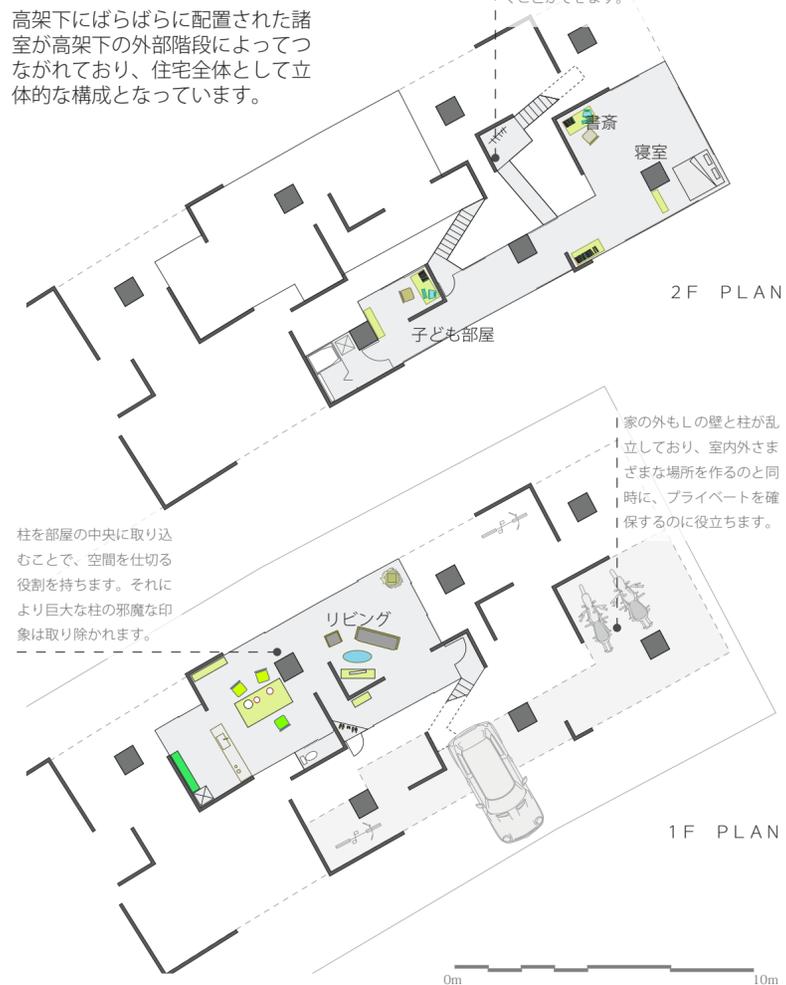
所在地 愛知県名古屋市南区笠寺
用途 集合住宅(7住戸)

建ぺい率 60%
容積率 150%
敷地面積 1300㎡
建築面積 780㎡
延床面積 1650㎡

立体構成住宅

高架下にばらばらに配置された諸室が高架下の外部階段によってつながれており、住宅全体として立体的な構成となっています。

高架下階段の途中にはテラスが付いており、洗濯物を干したり、いすなどを置いてくつろぐことができます。



2F PLAN

1F PLAN

家の外もしの壁と柱が乱立しており、室内外さまざまな場所を作ると同時に、プライベートを確保するのに役立ちます。

柱を部屋の中央に取り込むことで、空間を仕切る役割を持ちます。それにより巨大な柱の邪魔な印象は取り除かれます。



高架下公共空間

Lの壁によって切り取られた高架スラブの穴がトップライトとなり、高架下に明るい光が差し込みます。高架下の空間は住空間を曖昧に都市に広がっていきます。



SECTION 0m 10m

